

2006.11.13 《生命保険は本当に必要でしょうか？》

生命保険は「死んだ時と病気入院した時に」必要性が生ずる補償なのです。ところが「死んだ時」の事など、縁起が悪いのでまったく考えたくない人が意味も無く「俺は保険屋が好きでねー」と、観念的に保険拒否する人がおります。

「死んだときの事」は考えたくなくとも、いつかは必ず「死ぬその時」は訪れます。また保険は音楽 CD や洋服などとは違い、「好き嫌い」で（購買）契約するものではありません。CD やパソコンや洋服は時々「衝動買い」があります。

保険は必要性を充分感じた場合に、予算と必要に応じて契約するものであり、決して「つき合い」による衝動買い加入するべきではないと思います。

くどいようですが「好き嫌い」でしか、保険商品を観察しない場合には大きな経済的な損失を被る事になりかねません。

仮に保険が好きだから、セールスから言われたままに「高額な金額」に加入した場合。保険期間中に死亡した場合には「高額な金額」はもらえるのは確かです。しかし「高額な掛け金」を期間中支払うのも確かです。仮に保険期間中死亡しなかった場合には「高額な保険金額」はもらえないどころか、「高額な掛け金」は支払い放し（ばなし）状態です。

一方、保険が嫌いだから生命保険に興味を持たない場合、「死亡したあと」家族に対する生活保障の責任感を持たない生き方の証しになりかねません。かといって「有り余るお金のゆとりがある家庭」の場合には、別に保険をあてにしなくとも「生活保障」がされるので、「嫌いだから」保険に加入しない「論理」は充分通用すると思います。

一般的な日本人の生活水準は、別に保険をあてにしなくとも「生活保障」がされる「有り余るお金のゆとりがある家庭」は多分、1億2千万人強のごく限られた人々だと推測できます。

日本人は全世帯数全体の約87%近くが生命保険に加入しており、1年間に支出する支払い保険料は、1世帯平均約52.6万円強といわれております(生命保険センター18年度調査)。このデータは、ごく限られた人が保険嫌いであり、逆に言うと、保険には興味を持っている人がかなりいる事が分かります。

生活の知恵から生まれた生命保険は、合理的なお金の使い方として「必要に応じて」「必要なだけ払えば」、遺族補償が得られる「生命保険設計」をいかに中立公正にアドバイスできる立場にいるのかが「生命保険代理店」だと思います。

《老後の生活費は最低でも月額24.2万円かかる？》

生命保険文化センター「平成16年度生活保障調査」によると、老後を夫婦2人で暮らしていく上で必要最低生活費は月額24.2万円で、老後のゆとりのための上乗せ額は13.7万円。合計するとゆとりの老後のゆとり生活費用

は37.9万円になります。

ちなみに平成18年度の老齢基礎年金は年額79万2100円。これにサラリーマンであれば老齢厚生年金が上乘せされます。この調査で、公的年金で日常生活費が「まかなわれるとは思わない」と回答したのは8割ありました。

老後生活のための経済的準備をしていると答えたのは61.5%あり、具体的な準備手段として「個人年金や生命保険」が43.5%。「預貯金」が41.8%など。保険会社や郵便局。共済などの個人年金保険（共済）の加入率は全体で17.3%と回答。

生命保険の使命は「死亡した場合の遺族補償」と「病気リスクの経済的損失カバー」である事は明白であります。

どうせ生命保険に加入するなら、「いかに適切な補償金額を設定して」「いかに安い保険料」を支払い続けるか？を「義理人情」抜きにして冷静にご自分を見つめなおす機会をもたれたらいかがでしょうか？